

報告者・報告タイトル

- ・柳川 耕平 氏（立命館大学）
「生を律する時間：フッサー現象学の視座から」
- ・齋藤 早苗 氏（お茶の水女子大学）
「時間論とワークライフバランス研究を接続する」
- ・真鍋 公希 氏（中京大学）
「後期近代的な時間意識としての「タイパ」：
メディア利用行動との関連を中心に」

主催：

- ・「社会の時間」研究会
- ・神戸大学異分野共創研究ユニット
「『文化交渉学』創出にむけた研究ユニット」

2024年度夏 公開研究会

現代人の生と時間

8月30日（金）
14：30～18：30

立命館大学大阪梅田キャンパス・第7教室
対面およびオンライン（Zoomミーティング）開催
会場へのアクセスはこちらをご覧ください
<https://www.ritsumei.ac.jp/osakaumedacampus/access/>

報告者プロフィール



柳川 耕平（立命館大学）

立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員。専門は現象学、時間論、認識論。
主な著書・論文に「フッサーの初期、中期時間論におけるヒューレー・感覚
について」（『アルケー』31号、2023年）、「フッサー現象学の鍵概念（1）
——時間」（『フッサー研究』20号、2023年）など。



齋藤 早苗（お茶の水女子大学）

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻社会学・
社会政策領域博士後期課程。専門は育児休業、組織文化、ジェンダー、時間
意識。主な著書・論文に『男性育休の困難：取得を阻む「職場の雰囲気」』
（青弓社、2020年）、『社会人のための文系大学院の学び方』（青弓社、2022
年）など。



真鍋 公希（中京大学）

中京大学現代社会学部講師。専門は映像・映画研究、メディア研究、文化社会
学。主な著書・論文に『円谷英二の卓越化：特撮の社会学』（ナカニシヤ出
版、2023年）、「特撮技師の執筆戦略：P. Bourdieuの場の理論の視座から」
（『ソシオロジ』65巻2号、2020年）など。



お問い合わせ

神戸大学大学院人文学研究科・梅村 麦生
(umemura.mugio@people.kobe-u.ac.jp)

参加申込はこちらから 締切：8月25日（日）
<https://forms.gle/BrJUvZRgLsbb43MJ9>